常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年６月１６日(水)
その２

◇　「梅の木の復活」に想う

通用口左奥、プール近くの植え込みにある記念碑。校内の紅白梅が、昭和 63 年度卒業生（※卒業は平成元年三月）の卒業記念樹であることを示している。

昭和 63 年度は、本校が新築移転された 2 年目。紅白梅が定植されたのは、今から 34 年前になる。

赤破線○の場所にも、おそらく梅の木があったのだろう。所々にぽかんと空間があるのは、立ち枯れ等の理由により梅を伐採した跡だ。定植当時は 20 本あった紅白梅も、現在残るのは 15 本。3/4となった。

「梅の木」の寿命自体は、100 年以上あるという。しかし、25 年ほどで実梅の収穫が極端に落ちるとされ、梅農家では 25 年を目途として新たな梅の木を植栽育樹するとのことだ。

本校の実梅は、第 28 代の内田校長が残した記録によれば、平成 25 年度（定植から 26 年目）の実梅の収穫量は 100kg。最近はめっきり収穫量が落ち、40kg を前後した収穫量が続いた（H25 との比較で 60%減）。昨年度は 20kg まで落ち込んだのも、梅の木の本数減に加え、梅の特性によるものだから致し方がない。

ところがである。今年の実梅の収穫高は計 90kg。昨年度比 450%で、最盛期に匹敵する。山田校務員によれば、立ち枯れした梅の木の伐採はここ数年のこと。つまり、全ての梅の木が元気なら、120kg の実梅の収穫があっただろうという計算が立つ。

緑化担当の加藤校務主任と山田校務員が、こつこつと肥料を施しつつ、「ウメノキゴケ」の除去を行った成果が表れた結果であると推察できるが、梅の木の特性を越えての大復活には驚きを隠せない。いかに「環境」と「栄養」が重要であるかがよく分かる。

子供も同じ。よく食べて、成長に必要な栄養をたっぷりと取る。そして、子供の健やかな成長と伸長に向けた教師の支援･環境づくりを担うのは、我々である。